

## ◎景気ウォッチャー調査[2020年2月]

### 2020年2月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を9.8ポイント下回る30.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響で、地元におけるイベントが中止となり、人の往来が遮断されている。」(コンビニ)、「新型コロナウイルスの影響によるキャンセルや延期が相次いでいる。」(高級レストラン)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を9.5ポイント下回る30.3となった。

企業動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「自動車や建築などの主要分野で計画が下振れしており、取引先各社で仕事量が減っている。」(鉄鋼業)、「新型コロナウイルスの影響により中国向けの輸出が激減している。」(輸送業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を9.3ポイント下回る33.1となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「求人数が減少している。また、事業所の閉鎖等の退職者が増加傾向である。」(職業安定所)、「新型コロナウイルスの影響で製造、販売が停止し、求人の取り消しや労働者の休業などが発生している。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を12.6ポイント下回る30.0となった。

	2月	1月	前月差
合計	30.8	40.6	-9.8
家計動向関連	30.3	39.8	-9.5
企業動向関連	33.1	42.4	-9.3
雇用関連(参考値)	30.0	42.6	-12.6

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月前の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を16.5ポイント下回る26.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス問題が収束すればやや良くなるが、現状では先行きが不透明で、中国の生産や物流関係が元に戻るにはまだ時間が掛かる。」(百貨店)、「桜シーズンの海外団体の宿泊予約キャンセルや、イベントの開催の自粛など新型コロナウイルスの影響は計り知れない。」(都市型ホテル)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を18.6ポイント下回る25.7となった。

企業動向関連は、「新型コロナウイルスの影響で経済全体が停滞するリスクがあり、鉄鋼業も相応の影響を受ける。」(鉄鋼業)、「米国と中国の貿易摩擦が製造業に与える影響が大きく、景気が不透明であったが、今回の中国を中心とした新型コロナウイルス感染でより一層景気の見通しがつかなくなる。」(化学工業)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を9.2ポイント下回る29.4となった。

雇用関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「同一労働同一賃金の問題、及び国内外のコロナ感染問題で、どの企業でも雇用を控える動きが広がる。」(人材派遣会社)、「今回の新型コロナウイルスの影響が大きく、各種採用イベントの中止に伴い採用活動自体が自粛傾向になる。」(求人情報誌製作会社)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を16.2ポイント下回る25.0となった。

	2月	1月	前月差
合計	26.4	42.9	-16.5
家計動向関連	25.7	44.3	-18.6
企業動向関連	29.4	38.6	-9.2
雇用関連(参考値)	25.0	41.2	-16.2